

小6算数 学習のすすめかた

【授業を受けるうえでの注意点】

- 【授業前】・宿題ノートや添削課題を教卓へ提出し、お手洗いはすませておきましょう。
- ・テキストや筆記用具などの準備をし、忘れ物があるときは受付へ相談してください。
 - ・携帯電話など音が出る機器は、サイレントモードにするか電源をオフにしましょう。
(緊急の場合は教室あてに連絡をお願いしてください)
- 【授業中】・休けい時間は取らないので、お手洗いに行きたくなったときや体調が悪くなった場合は、遠慮せずに手をあげて申告してください。
- ・飲み物は飲みたいタイミングで飲んでもかまいませんが、アメやガムなどもふくめ、食べ物は禁止です。(トローチなどは授業前にあらかじめ申告をしてもらえば許可をします)
 - ・授業の進行をさまたげるような言動や授業を受けるのにふさわしくない姿勢は注意をします。
(私語、不規則発言、机へのつつし、居眠り、イスあそび、テキスト立て など)
 - ・計算や途中式はテキストに書きこまず、授業用ノートへ実施するようにしてください。
(問題文への線引きや図形問題の条件等はテキストに書きこみでかまいません)
 - ・授業中に演習した問題で間違えた問題は、問題番号に印をつけましょう。
 - ・先生が板書した内容は、ひととおり授業用ノートに書き残すようにしてください。

【クラス共通の宿題】

- (1) 「類題演習」(新演習) / 例題の復習＋類題演習の全問
- (2) 「基本問題」(新演習) / 授業で間違えた問題の再実施＋残り
- (3) 「計算日記」(1回あたり6ページぶん) / 新演習と対応する回を実施
- (4) 「確認テスト」 / (1)～(3)の課題がひととおり終了してから実施
- (5) 次回例題の読みこみ(解かなくても可)・そのほかプリントなど

- 《留意点》・すべての宿題について、実施だけではなく、「○つけ」「×問の間違い直し」「×問を自力で解けるまで再実施」をセットで実施することがルールです。
- ・「計算日記」はなるべく1日1ページずつ、解くのは1ページあたり15分以内を目安に実施しましょう。
 - 1行問題をとくためには、(1)を完了している必要があります。
おそくとも木曜日までに(1)は実施し、木曜日から開始できるようにしましょう。
 - ・「確認テスト」はその週の学習の成果を確認するための課題ですので、その回の宿題がひととおり終了してから実施し、満点を目指してください。
 - このあとの項目に記載されているルールを守って実施しましょう。
 - ・(1)(2)は宿題用ノート、(3)は計算日記用ノート、(4)は毎回配布する添削用紙に実施し、毎回の授業前に教卓へ提出してください。
(確認テストの問題用紙は提出不要です)

【確認テストの進めかた】

- ① 配布された添削用紙を、たてに半分で折る。(真ん中で区切る)
- ② 実施日・名前を書く。
- ③ 時間をはかり、途中式や筆算をできる限り残しながら全問を実施する。
 - ※ ①で折った折り目を目安に、途中式や答えを横ではなく、縦(たて)に書き進めてください。
 - ※ スペースが足りない場合は、裏面を使用してもかまいません。
- ④ 実施にかかった時間を添削用紙の左上へメモをする。
- ⑤ 解説冊子を確認して、○つけをする。
- ⑥ 間違えた問題は、解説冊子や授業用ノートを確認して、ミスの修正(直し)やメモをする。
 - ※ 解説冊子や授業ノートを確認しても理解できない問題は、「わからない」と書いてとばしましょう。
- ⑦ ⑥で理解をした問題を、余白へもう一度解く。(自力で正解するまで解きなおす)

《留意点》・図の中へ書きこみが必要な問題は、添削用紙に問題の図をうつしてから、うつした図の中へ書きこみをしながら解きましょう。

- ・入試担当者(添削課題は先生)に伝わる途中式を残すことや、少なくとも答えはていねいに書くことを心がけてください。

【応用力をつけるための任意課題】

□ 「塾技算数」(文英堂/市販教材)

→ ～8月末までを目安に、1周＋α(間違えた問題の再実施)完了を目指してください。
夏期講習までは未習の内容もふくまれるため、習った単元から計画的に実施しましょう。

※ 難関中を目指す場合は、算数演習授業とあわせての実施を推奨しています。

【宿題を実施するときにとくに注意してほしいこと】

×問は、「1回目」と「自力で正解できるまで実施したもの」の2回以上の演習が必要です。

□ 「間違い直し」

- ・解説や授業ノートを確認し、間違えたところの修正を色ペン(色鉛筆)で実施しましょう。
- ・解法を忘れていた問題は、解説や授業ノートを確認したうえで、「どのように解くか」を自分なりの言葉や式で余白へ書き残してください。

□ 「×問を自力で解けるまで解き直し」

- ・1回目に解いたところとは別の場所に、「解き直し」「2回目」など書いてから、「間違い直し」で確認したことをふまえ、自力で解けるまでくりかえし実施しましょう。

実施例

添削問題解答用紙
小5算数

「確認テスト」第1回

第1回

得点	採点者
----	-----

登録 講座	教室	期	限	振替	体験	提出日	※まず名前を書きましょう。
会員番号	18分25秒	※時間をはかり、ひととおり とどめるまでにかかった時間を メモしてください。		氏名			

途中の式や考え方も記入すること。

「確認テスト」用紙も、一緒に提出すること。
「確認テスト」の元の用紙の提出は不要です。

① ① $91 - 6 \times (23 - 9) = 7$
84 → 解をたか先生へ伝えるように、
式・考え方を残しましょう。
(仮わかんば自分なりの
進めかたで大丈夫)

② $\frac{3}{4} + 2\frac{2}{5} = 1\frac{15}{20} + 2\frac{8}{20}$
 $= 3\frac{23}{20}$
 $= 4\frac{3}{20}$ → ※どれか答えかー見して
わかるように、答えには
線を引いてください。

※「たて」へ解き進めて
ください。

② ①
$$\begin{array}{r} 2160 \\ 2130 \\ \hline 3115 \\ 5 \end{array}$$
 → ※暗算でできる場合でも、
最低限どのように答えに
到達したかは書き残す
ようにしてください。

$$\begin{array}{r} 2 \times 2 \times 3 \times 5 \end{array}$$

③ × 約数の個数ぶんテンプが押せる。

※必要に応じて、言葉で考えかたをメモ
しましょう。

1 2 4 → 6回 ⇒ 赤
20 10 5

教え方がい
→ 偶数回…青
奇数回…赤

※間違えていた問題は、
「なぜその答えになるか」
の根拠のメモ、直して
しましょう。
(解説を正確にわからず)

※解き終わったら、
は、メモリ×を
つけてください。

※真ん中で折るなどして、左右に分けてください。
→ 途中式や問題は、「たて」に書き進めましょう。

④ × $150 \div 5 = 30$
 $150 \div 25 = 6$ $30 + 6 = 36$
→ $30 + 6 + 1 = 37$
→ $150 \div 125 = 1.2$
もはず

わからない

$150 \div 7 = 21$
 $150 \div 49 = 3$
なぜ49でわるのか
わかりません

※解説を見ても解きかたがわからないときは、
解説に書かれている内容の何かわからないか
をなるべく具体的に書いてとばしてください。
(わかるころまでは直しましょう)

⑤ × 間違えた問題は、別にとこへ
「解き直し」などメモしてから
自分で正解するまで解き直して
ください。

⑥ ①
$$\begin{array}{r} 2 \\ 20 \\ \hline 10 \\ 5 \end{array}$$
 → 6回
赤青赤青

※解き直しも〇つけをしましょう。

※スペースが足りないときは、
ラフ面も使用しても
かまいません。

小6理科 学習のすすめかた

【授業を受けるうえでの注意点】

- 〔授業前〕・宿題ノートや添削課題を教卓へ提出し、お手洗いはすませておきましょう。
- ・テキストや筆記用具などの準備をし、忘れ物があるときは受付へ相談してください。
 - ・携帯電話など音が出る機器は、サイレントモードにするか電源をオフにしましょう。
(緊急の場合は教室あてに連絡をお願いしてください)
- 〔授業中〕・休けい時間は取らないので、お手洗いに行きたくなったときや体調が悪くなった場合は、遠慮せずに手をあげて申告してください。
- ・飲み物は飲みたいタイミングで飲んでもかまいませんが、アメやガムなどもふくめ、食べ物は禁止です。(トローチなどは授業前にあらかじめ申告をしてもらえれば許可をします)
 - ・授業の進行をさまたげるような言動や授業を受けるのにふさわしくない姿勢は注意をします。
(私語、不規則発言、机へのつぶし、居眠り、イスあそび、テキスト立て など)
 - ・計算や途中式はテキストに書きこまず、授業用ノートへ実施するようにしてください。
(問題文への線引きや図形問題の条件等はテキストに書きこみでかまいません)
 - ・授業中に演習した問題で間違えた問題は、問題番号に印をつけましょう。
 - ・先生が板書した内容は、ひととおり授業用ノートに書き残すようにしてください。

【クラス共通の宿題】

- (1) 「学習の要点」(新演習) / 読みこみ・暗記 (予習で実施してもかまいません)
- (2) 「基本問題」(新演習) / 全問実施 (授業で実施した問題ももう一度実施してください)
- (3) 「トレーニング」(新演習) / 実施・暗記 (チェックテストを実施)
- (4) 「確認テスト」 / (1)～(3)の課題がひととおり終了してから実施
- (5) 「コンプリーション」

- 《留意点》・すべての宿題について、実施だけではなく、「○つけ」「×問の間違い直し」「×問を自力で解けるまで再実施」をセットで実施することがルールです。
- ・「確認テスト」はその週の学習の成果を確認するための課題ですので、その回の宿題がひととおり終了してから実施し、満点を目指してください。
→ このあとの項目に記載されているルールを守って実施しましょう。
 - ・「トレーニング」は毎回チェックテストを実施します。
→ 覚えるまでくりかえし実施しましょう。
〔合格点〕 1問ミスまで … 不合格の場合は、宿題用ノートへもう一度全問を実施し、翌週の授業で提出してください。
 - ・(2)(3)は宿題用ノート、(4)は問題用紙へ直接書きこみ、(5)はコンプリーション用ノートに実施し、毎回の授業前に教卓へ提出しましょう。

【確認テストの進めかた】

- ① 名前を書く。
 - ② 計算問題や条件整理が必要な問題は確認テストの余白へ途中式や図を書きながら解き、解答も確認テストへ直接書きこみながら解き進める。
 - ③ 解説冊子を確認して、○つけをする。
 - ④ 間違えた問題は、解説冊子や授業用ノートを確認して、ミスの修正(直し)やメモをする。
 - ⑤ ④で理解をした問題を、余白へもう一度解く。(自力で正解するまで解きなおす)
- ※ ルールが守れていない答案については再提出を指示することがあります。

【コンプリーションの進めかた】

- ☐ 専用のノートをつくり、既習の分野から1週1単元以上を目安に実施してください。
- スムーズに過去問演習を開始するため、おそくとも8月末までにひととおりの完成を目指しましょう。
(難関中を目指している場合はさらに前倒しで完了し、終わり次第「塾技」に取り組んでください)
- ☐ 9月以降はコンプリーションでチェックテストを実施予定です。

【応用力をつけるための任意課題】

- ☐ 「塾技理科」(文英堂/市販教材)
- ～8月末までを目安に、1周+α(間違えた問題の再実施)完了を目指してください。
夏期講習までは未習の内容もふくまれるため、習った単元から計画的に実施しましょう。
- ※ 難関中を目指す場合は実施を推奨しています。

【宿題を実施するときにとくに注意してほしいこと】

×問は、「1回目」と「自力で正解できるまで実施したもの」の2回以上の演習が必要です。

- ☐ 「間違い直し」
- ・解説や授業ノートを確認し、間違えたところの修正を色ペン(色鉛筆)で実施しましょう。
→ 単なる暗記の問題をのぞき、「なぜその答えになるか」を「記述問題に答えるつもり」でメモを書き残してください。
 - ・計算問題の×問は、解説や授業ノートを確認したうえで、「どのように解くか」を自分なりの言葉や式で問題用紙の余白へメモしてください。
- ☐ 「×問を自力で解けるまで解き直し」
- ・1回目に解いたところとは別の場所に、「解き直し」「2回目」など書いてから、「間違い直し」で確認したことをふまえ、自力で解けるまでくりかえし実施しましょう。

算数演習授業 学習の進めかた

【授業を受けるうえでの注意点】

- 〔授業前〕 ・ 宿題ノートや添削課題を教卓へ提出し、お手洗いはすませておきましょう。
- ・ テキストや筆記用具などの準備をし、忘れ物があるときは受付へ相談してください。
 - ・ 携帯電話など音が出る機器は、サイレントモードにするか電源をオフにしましょう。
(緊急の場合は教室あてに連絡をお願いしてください)
- 〔授業中〕 ・ 休けい時間は取らないので、お手洗いにいきたくないときや体調が悪くなった場合は、遠慮せずに手をあげて申告してください。
- ・ 飲み物は飲みたいタイミングで飲んでもかまいませんが、アメやガムなどもふくめ、食べ物
は禁止です。(トローチなどは授業前にあらかじめ申告をしてもらえれば許可をします)
 - ・ 授業の進行をさまたげるような言動や授業を受けるのにふさわしくない姿勢は注意をします。
(私語、不規則発言、机へのつつし、居眠り、イスあそび、テキスト立て など)
 - ・ 計算や途中式はテキストに書きこまず、授業用ノートへ実施するようにしてください。
(問題文への線引きや図形問題の条件等はテキストに書きこみでかまいません)
 - ・ 授業中に演習した問題で間違えた問題は、問題番号に印をつけましょう。
 - ・ 先生が板書した内容は、ひととおり授業用ノートに書き残すようにしてください。

【クラス共通の宿題】

- (1) 授業で実施した問題の×問再実施 (実力アップ問題集)

(2) 「基礎演習」(実力アップ問題集) / 次回分を全問実施 (予習)

- 《留意点》 ・ すべての宿題について、実施だけではなく、「○つけ」「×問の間違い直し」「×問を自力で解けるまで再実施」をセットで実施することがルールです。
- ・ (1)(2)ともに宿題用ノートに実施し、毎回の授業前に教卓へ提出してください。
 - ・ 「ポイントチェック」の実施は任意です。